

第 2 章

子育ての悩みとしつけ

山岡 テイ



第1節

子育ての悩みや気がかり

子育ての悩みや気がかりは、「犯罪や事故に巻き込まれること」が第1位で、食生活の悩みやしつけの方法、友だちとのかかわりが上位を占めた。同じ園児をもつ母親でも幼稚園と保育園では子育ての悩みや気がかりに多くの相違がみられた。

◆◆子どもの安全の確保と
しつけ・食生活が悩み

子育ての悩みや気がかりを45項目のなかから複数回答してもらった。近年の不穏な世相を反映して、全体の第1位には、子どもが「犯罪や事故に巻き込まれること」75.6%があげられた。次いで、「ほめ方・しかり方」47.0%、「しつけのしかた」46.8%、「友だちとのかかわり」46.1%、「量や栄養バランスを考えた食事の与え方」43.8%が上位5位であった。上位10位までは、しつけの方法と食生活に関連した悩みでほとんど占められていた(図2-1)。

1997年調査と比較すると、「犯罪や事故に巻き込まれること」は設問項目になかったが、①「ほめ方・しかり方」59.9%、②「しつけのしかた」51.1%、③「友だちとのかかわり」49.9%の順位は同様で、今回のほうが数値が低くなっていた。

食生活関連でみると、「食の安全性」(39.8%→29.4%)。数値の変化は、1997年調査→2003年調査をあらわしている。以下同様)、「食中毒」(34.6%→19.8%)、「エコロジーや環境問題」(23.8%→11.0%)はいずれもその数値は減少しているが、1997年当時は、ダイオキシンや環境ホルモン問題が社会的な関心事だったためだと考えられる。一方、今回は第5位の「量や栄養バランスを考えた食事の与え方」(39.8%→43.8%)や第6位の「食事のしつけ」(39.1%→42.8%)は増加しており、家

庭内での食生活の対応へと関心が移行している(巻末基礎集計表参照)。

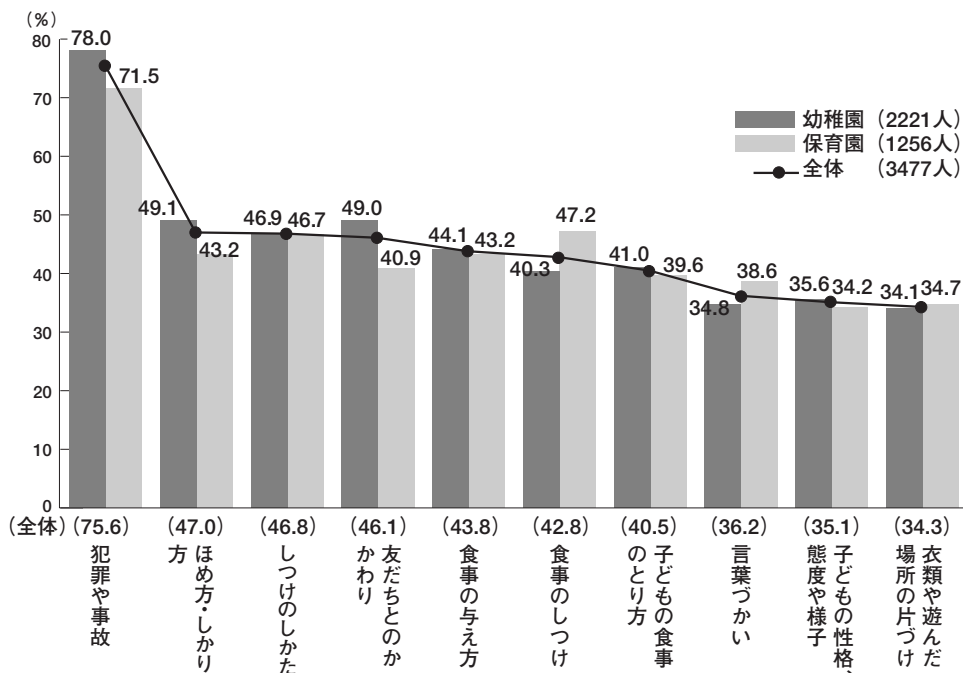
◆◆幼稚園・保育園で異なる悩みや
気がかりの内容

幼保別で子育ての悩みや気がかりの差がとくに大きかった項目を、図2-2に示した。専業主婦の95.4%、パートの40.9%、常勤の12.2%が幼稚園に通わせており、専業主婦の4.6%、パートの59.1%、常勤の87.8%が保育園に通わせている。

幼稚園児の母親は、「犯罪や事故に巻き込まれること」「友だちとのかかわり」、母親自身の「人間関係」など、地域の安全性や親子それぞれの人間関係を気がかりとしてあげたり、「食の安全性」や「お弁当や給食」「着がえ」のほか、「これからの生きがいや始めたいことについて」などをあげたりする比率が高かった。保育園児の母親は、「食事のしつけ」や「歯磨き・手洗いの習慣」「生活リズムと起床・就寝時間」など生活習慣のしつけに加えて、自分自身の「仕事に関すること」や「小学校入学前の準備教育」が多く選択されていた。

また、「その他」を選択した回答者は136人であるが、その具体的な記述をみると上位3位は「お金に関すること」23.5%、「きょうだいとのかかわり」12.5%、「仕事と家庭の両立」11.8%であった。

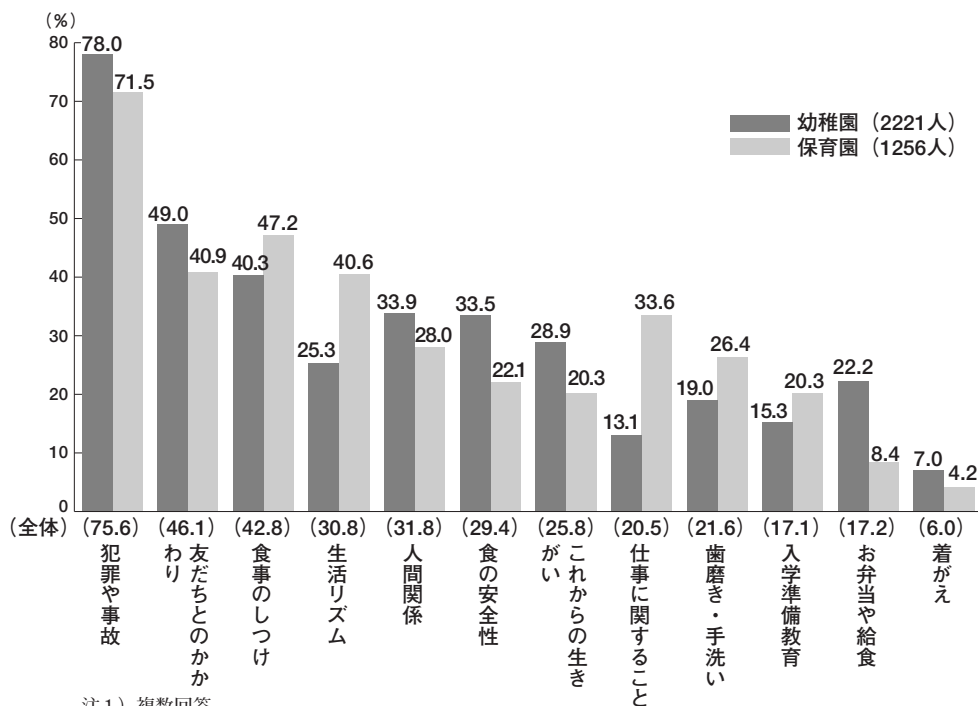
■図2-1 子育ての悩みや気がかり(幼保別)



注1) 複数回答。45項目中上位10項目を図示した。

注2) 項目は一部、略記した。詳細は「調査票見本」(p.112～113)を参照のこと。

■図2-2 子育ての悩みや気がかり(幼保別の相違項目)



注1) 複数回答。

注2) 項目は一部、略記した。詳細は「調査票見本」(p.112～113)を参照のこと。

◆◆「食事のしつけ」の悩みは男子

「犯罪や事故」は女子に多い

子どもの性差や学年によっても、母親が抱える悩みの深さや内容には違いがみられる(表2-1)。

子育ての悩みや気がかり上位10位のなかで性別による差が大きいのは「食事のしつけ」で、男子46.3%、女子39.2%となっており、男子の母親に多い悩みである。さらに学年別にみると、年少児では2人に1人の母親が「食事のしつけ」に悩んでいるが、年中児では男女差が10.8ポイントになっていた。

また、「犯罪や事故に巻き込まれること」については男子73.9%で、女子のほうが77.5%と多かった。さらに女子では、園以外にも外遊びの機会が多い幼稚園児の母親が80.8%となっており、保育園児の母親の71.3%に比べて安全性について多く心配して

いた。

気がかりの上位項目ではないが、「テレビゲーム」(男子21.1%、女子5.6%)や「テレビやビデオの見方」(男子31.9%、女子25.6%)にも男女差がみられ、男子の母親のほうが悩んでいるようである(巻末基礎集計表参照)。

また、1997年調査でも男子のほうが高い数値を示した項目であるが、今回も同様に「おねしょ、トイレのしつけ」(男子17.2%、女子12.1%)、「ケガや病気」(男子29.0%、女子24.9%)、「アレルギー」(男子25.9%、女子20.0%)、「いじめ」(男子25.1%、女子21.8%)、「小学校入学前の準備教育」(男子19.4%、女子14.6%)などで男女差がみられた。男子のほうが、「ケガや病気」が多い実状もあるが、母親は異なった性である男子のからだや心の成長発達を気にかけている様子があらわれていた(巻末基礎集計表参照)。

■表2-1 子育ての悩みや気がかり(全体、学年×性別)

(%)

順位	全体 (男子1790人 女子1682人)	年少 (男子401人 女子349人)	年中 (男子673人 女子659人)	年長 (男子704人 女子664人)
1	犯罪や事故に巻き込まれる 男子 73.9 女子 77.5	犯罪や事故に巻き込まれる 73.8 74.5	犯罪や事故に巻き込まれる 72.5 77.1	犯罪や事故に巻き込まれる 75.0 79.7
2	ほめ方・しかり方 男子 47.4 女子 46.5	食事のしつけ 49.6 45.3	ほめ方・しかり方 47.5 48.1	ほめ方・しかり方 49.4 48.0
3	しつけのしかた 男子 47.2 女子 46.4	しつけのしかた 47.1 46.7	しつけのしかた 48.1 46.4	友だちとのかわり 46.3 50.0
4	友だちとのかわり 男子 44.5 女子 47.7	子どもの食事のとり方 45.6 46.4	友だちとのかわり 45.6 48.3	しつけのしかた 46.2 46.4
5	食事の与え方(量や栄養バランス) 男子 44.3 女子 43.2	食事の与え方(量や栄養バランス) 45.1 45.3	食事の与え方(量や栄養バランス) 44.7 44.9	食事の与え方(量や栄養バランス) 43.0 40.2
6	食事のしつけ 男子 46.3 女子 39.2	ほめ方・しかり方 43.9 41.3	食事のしつけ 48.1 37.3	食事のしつけ 42.2 37.8
7	子どもの食事のとり方 男子 40.4 女子 40.7	友だちとのかわり 38.9 42.7	子どもの食事のとり方 39.4 40.4	子どもの食事のとり方 38.8 38.0
8	言葉づかい 男子 36.5 女子 35.8	言葉づかい 35.7 34.4	子どもの性格、態度や様子 35.4 34.1	言葉づかい 38.4 37.8
9	子どもの性格、態度や様子 男子 34.5 女子 35.8	衣類や遊んだ場所の片づけ 32.2 33.8	言葉づかい 35.1 34.4	子どもの性格、態度や様子 36.2 37.7
10	衣類や遊んだ場所の片づけ 男子 33.8 女子 34.9	子どもの性格、態度や様子 29.9 35.2	衣類や遊んだ場所の片づけ 34.0 35.5	衣類や遊んだ場所の片づけ 34.4 34.8

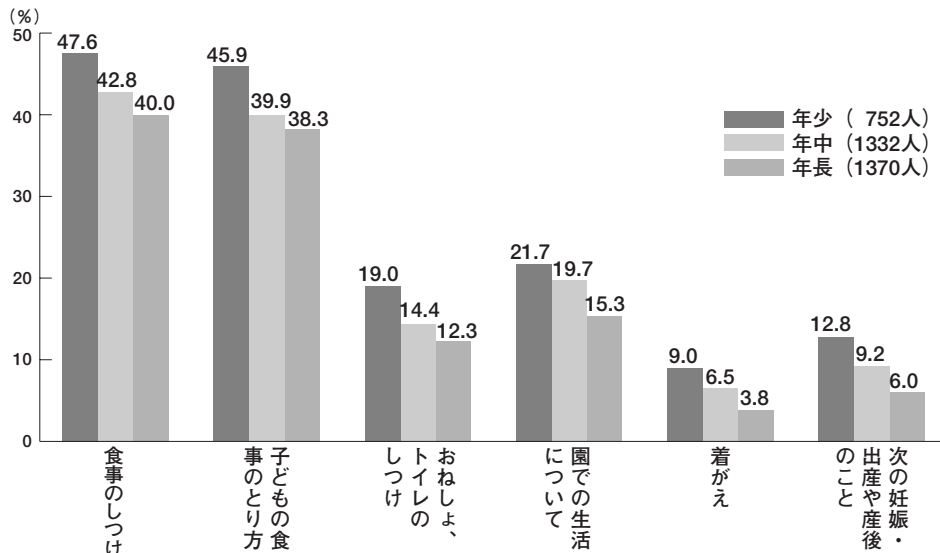
注1) 複数回答。注2) 項目は一部、略記した。詳細は「調査票見本」(p.112～113)を参照のこと。

◆◆関心は生活習慣のしつけから 社会性の育成へ

子育ての悩みや気がかりは学年が上がるとともに変化していく。学年が上がるにつれて減少していくのは、「食事のしつけ」や「子どもの食事のとり方」「おねしょ、トイレのしつけ」「着がえ」など生活習慣のしつけで

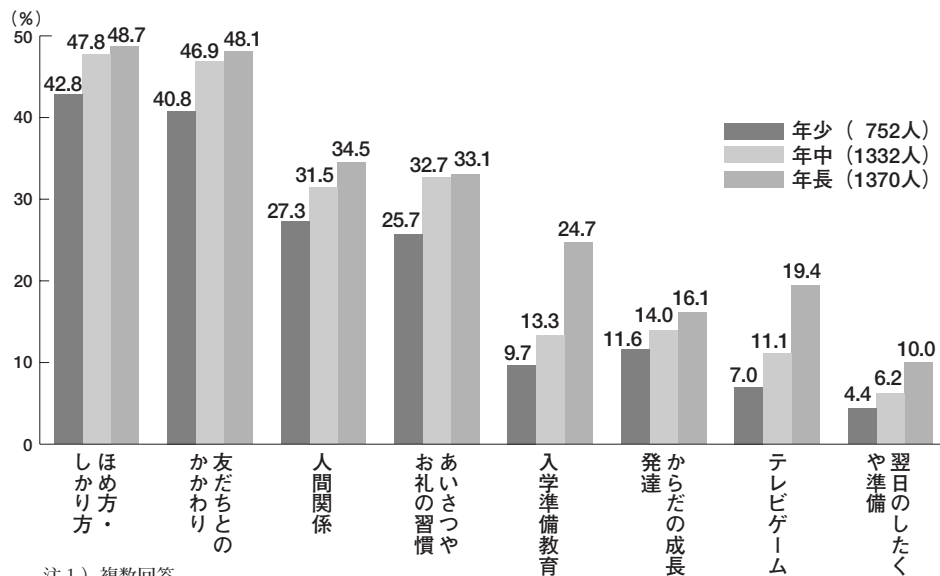
ある。一方、学年とともに増加するのは、「ほめ方・しかり方」「友だちとのかかわり」「あいさつやお礼の習慣」などで、子どもの社会性を育てることや対人関係、さらには、小学校入学を意識した準備へと関心が移行していく(図2-3、図2-4)。

■図2-3 子育ての悩みや気がかり(学年別、減少項目)



注) 複数回答。

■図2-4 子育ての悩みや気がかり(学年別、増加項目)



注1) 複数回答。

注2) 項目は一部、略記した。詳細は「調査票見本」(p.112～113)を参照のこと。

第2節

子育ての一番の悩みや気がかり

子育ての一番の悩みや気がかりでも、他を引き離して「犯罪や事故に巻き込まれること」が第1位であった。複数回答では第9位だった「子どもの性格、現在の態度や様子」が第3位にあがり、また上位10位中2項目で母親自身のこと最大関心事としてあげられていた。

◆◆「犯罪や事故に巻き込まれること」への不安、母親自身のことでも気がかり

子育ての悩みや気がかりの設問としてあげられた45項目のなかから、「現在もっとも気にかかっていること」を1つだけ選んで回答してもらった。その結果の上位10位までが図2-5である。

「犯罪や事故に巻き込まれること」への心配は、他の項目を引き離して第1位であった。続いて、「ほめ方・しかり方」6.3%、「子どもの性格、現在の態度や様子」6.1%、「しつけのしかた」5.8%、「友だちとのかかわり」5.4%の順であげられていた。また、母親自身の「人間関係」4.0%が第7位に、「仕事に関すること」2.6%が第9位になっていた。

1997年調査は選択項目数が異なるので単純に比較はできないが、①「ほめ方・しかり方」9.0%、②「友だちとのかかわり」7.5%、③「子どもの性格、現在の態度や様子」6.6%、④「人間関係」6.4%、⑤「これからの生きがい」4.6%が上位5位であった。最大関心事として、専業主婦に回答率が高い母親自身の「人間関係」や「これからの生きがい」が上位にあるのは、前回調査では、専業主婦55.6%（今回49.2%）が多かったこととも関連している。今回は、常勤18.1%（前回14.4%）やパート27.3%（前回26.2%）など働く母親に回答率が高い「仕事に関すること」が第9位になっていた。

◆◆働く母親の不安が

「仕事に関すること」に表出

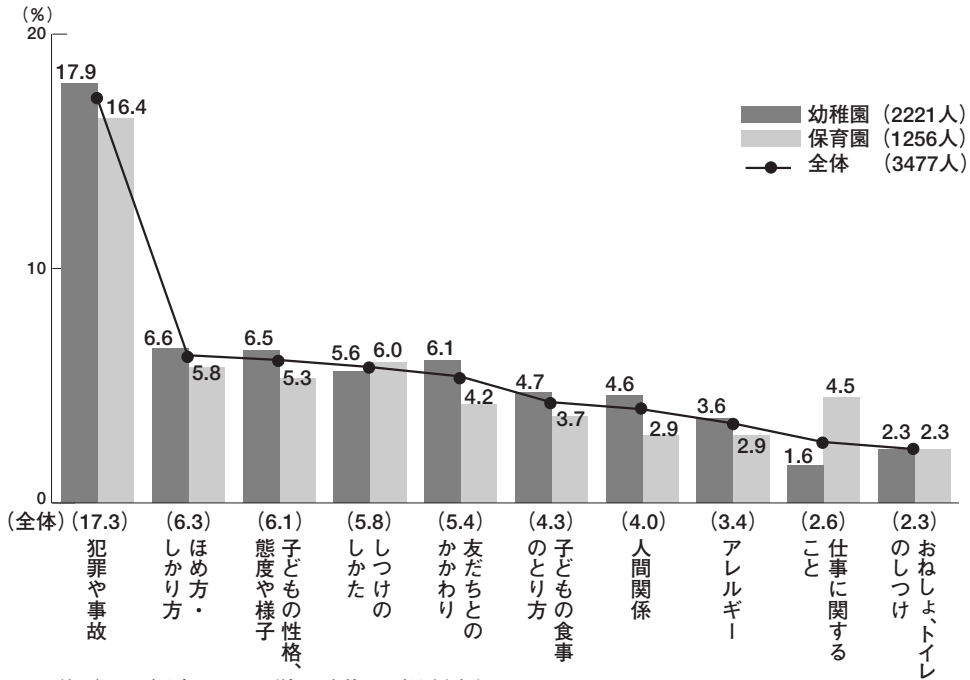
現在の一番の悩みや気がかりを、幼保別に相違がみられる項目で比較した（図2-6）。

園が終わったあとの時間も親子ともにつきあいが続くことが多い幼稚園児の母親は、子どもの「友だちとのかかわり」や母親自身の「人間関係」を悩みや気がかりとしてあげる比率が高かった。一方、保育園児の母親は、園での昼寝も影響してか、「生活リズムと起床・就寝時間」「睡眠時の習慣・癖や様子など」を選択する比率が高いほか、「仕事に関すること」が目立った。

また、「働く（活動する）女性として」の満足度をたずねた質問で、「あまり満足していない」と「ぜんぜん満足していない」と回答した常勤の母親は、子育ての一番の悩みや気がかりとして「仕事に関すること」を、それぞれ10.5%と15.8%あげており、他の気がかり項目に比べて、もっとも高い割合であった。

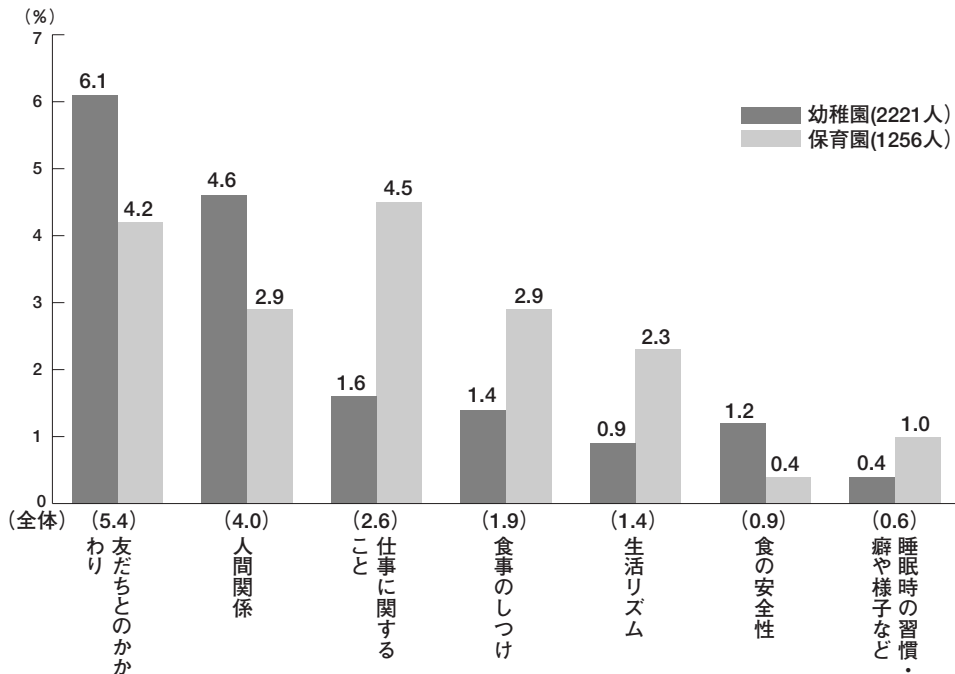
さらに、働く自分に「ぜんぜん満足していない」母親で、「子育てをしながら働いていること」を「とても負担」に感じている割合は、常勤の場合は73.7%、パートでも30.2%もいた。これらの結果は、幼児を抱えて長時間働く母親の深刻な状況を反映しており、家庭や地域、職場での個別に対応した援助の必要性を示唆している。

■図2-5 子育ての一番の悩みや気がかり(幼児別)



注1) 45項目中から1つ選択。上位10項目を図示した。
 注2) 項目は一部、略記した。詳細は「調査票見本」(p.112～113)を参照のこと。

■図2-6 子育ての一番の悩みや気がかり(幼保別の相違項目)



注1) 45項目中から1つ選択。
 注2) 項目は一部、略記した。詳細は「調査票見本」(p.112～113)を参照のこと。

◆◆気になる子どもの性格 毎日の生活態度や様子

子育ての一番の悩みや気がかりを学年別と性別で比較したのが表2-2である。

「犯罪や事故に巻き込まれること」は、年少児では男子に多いが、学年上昇とともに女子が多くなり、年長児の女子5人に1人は一番の心配事になっていた。女子のほうが数値が高い項目は、「友だちとのかかわり」(男子4.7%、女子6.2%)、「気になる癖」(男子1.7%、女子2.8%)で、男子は、「子どもの食事のとり方」(男子5.0%、女子3.7%)、「ケガや病気」(男子2.7%、女子1.4%)、「小学校入学前の準備教育」(男子2.6%、女子1.1%)

と回答する母親が多かった(一部巻末基礎集計表参照)。

「子どもの性格、現在の態度や様子」は、育児不安感が高い母親が子育ての一番の悩みや気がかりとしてあげる傾向が強い。具体的には、「子どもの態度にイライラする」「子どもを感情的に叱ってしまう」「子どもを思わずたたいてしまう」「子どもの様子を見てみると、つい不安になることがある」のすべてに「よくある」と回答している母親は、一番の悩みや気がかりとして「子どもの性格、現在の態度や様子」をもっとも多く選んでいた(図省略)。

■表2-2 現在の一歩の悩みや気がかり(全体・学年×性別)

(%)

順位	全体 (男子1790人 女子1682人)	年少 (男子401人 女子349人)	年中 (男子673人 女子659人)	年長 (男子704人 女子664人)
1	犯罪や事故に巻き込まれる 男子 16.6 女子 18.1	犯罪や事故に巻き込まれる 16.7 13.5	犯罪や事故に巻き込まれる 16.3 17.9	犯罪や事故に巻き込まれる 16.5 20.5
2	ほめ方・しかり方 男子 5.9 女子 6.7	しつけのしかた 6.7 7.7	ほめ方・しかり方 7.0 6.5	ほめ方・しかり方 6.0 7.1
3	子どもの性格、態度や様子 男子 6.4 女子 5.7	子どもの食事のとり方 7.7 5.7	子どもの性格、態度や様子 6.1 6.7	子どもの性格、態度や様子 7.7 5.0
4	しつけのしかた 男子 5.5 女子 6.0	ほめ方・しかり方 4.2 6.6	しつけのしかた 5.6 6.1	友だちとのかかわり 5.4 7.5
5	友だちとのかかわり 男子 4.7 女子 6.2	子どもの性格、態度や様子 5.0 5.4	友だちとのかかわり 5.2 6.4	しつけのしかた 4.5 5.1
6	子どもの食事のとり方 男子 5.0 女子 3.7	食事のしつけ 4.0 3.2	人間関係 3.9 3.8	人間関係 4.7 3.9
7	人間関係 男子 4.1 女子 3.9	人間関係 3.2 4.0	アレルギー 4.0 3.0	子どもの食事のとり方 4.5 3.5
8	アレルギー 男子 3.6 女子 3.1	アレルギー 2.7 4.3	子どもの食事のとり方 3.9 2.9	入学準備教育 4.7 1.7
9	仕事に関すること 男子 2.3 女子 3.0	仕事に関すること 3.5 3.2	食事の与え方(量や栄養バランス) 2.7 2.4	アレルギー 3.8 2.4
10	おねしょ、トイレのしつけ 男子 2.1 女子 2.4	友だちとのかかわり 2.2 3.4	ケガや病気 3.3 1.8	仕事に関すること 2.1 3.5

注1) 45項目中から1つ選択。

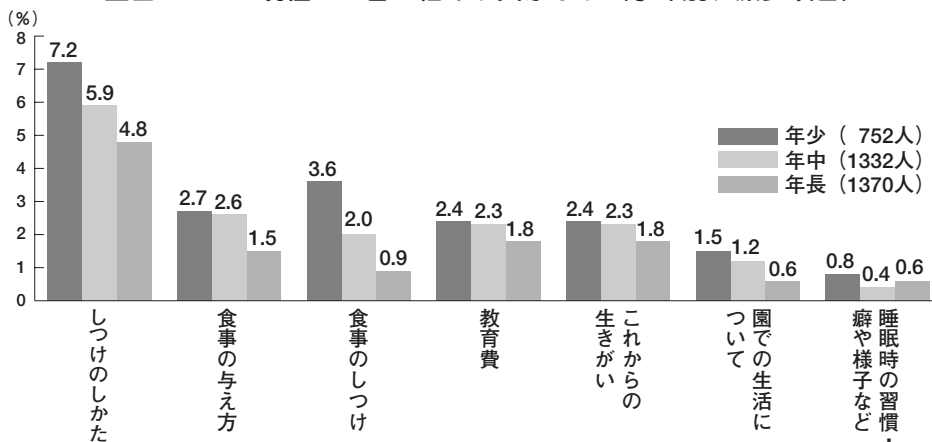
注2) 項目は一部、略記した。詳細は「調査票見本」(p.112～113)を参照のこと。

◆◆食生活全般の悩みから 特定された内容へ移行

子どもの学年の上昇とともに減少する一番の悩みや気掛かりは、しつけや食生活や園生活に関することが中心であり(図2-7)、学年上昇で悩みや気掛かりが増加する項目は、「犯罪や事故に巻き込まれること」と「友だちとのかかわり」である。それ以外には、数は少ないが「おねしょ、トイレのしつけ」「衣類や遊んだ場所の片づけ」「テレビゲーム」などが学年が上がるとともに増えていた(図2-8)。

子育ての一番の悩みや気掛かりを母親の年代で比較すると、10～20代は、「量や栄養バランスを考えた食事の与え方」「生活リズムと起床・就寝時間」「子どもとの遊び方」「衣類や遊んだ場所の片づけ」「心の悩み」が多く、30代は、「犯罪や事故に巻き込まれること」「子どもの性格、現在の態度や様子」、40代以上では、「お弁当や給食」「睡眠時の習慣・癖や様子など」「テレビゲーム」「からだ(健康)の悩み」が他の年代より多かった。それぞれの年代を特徴づける内容項目が選ばれている。

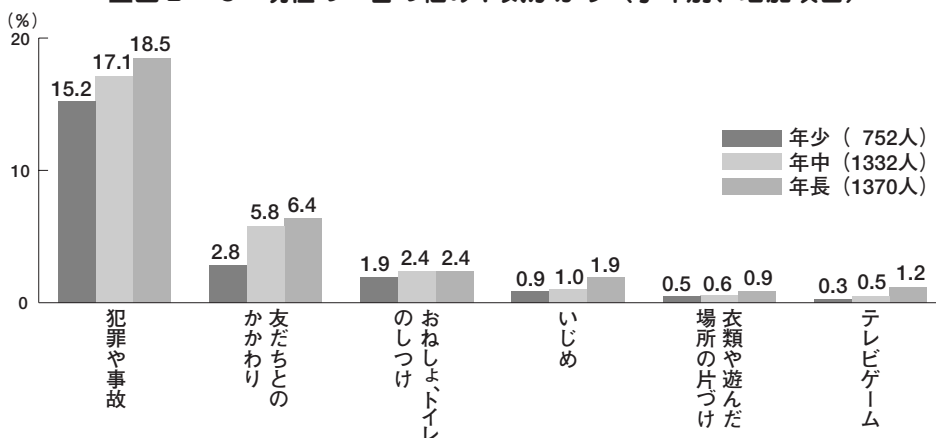
■図2-7 現在の一番の悩みや気掛かり(学年別、減少項目)



注1) 45項目中から1つ選択。

注2) 項目は一部、略記した。詳細は「調査票見本」(p.112～113)を参照のこと。

■図2-8 現在の一番の悩みや気掛かり(学年別、増加項目)



注1) 45項目中から1つ選択。

注2) 項目は一部、略記した。詳細は「調査票見本」(p.112～113)を参照のこと。

第3節

しつけ・教育の情報源

しつけ・教育の情報源は、友人、家族、園の先生、マスメディアなど多岐にわたる。とくに、幼稚園児の母親は数多くの育児情報を収集しているが、保育園児の母親はいくつかの限られた情報源を集中的に活用している。

◆「近所の友人・知人」「自分の親」「園の先生」「近所ではない友人・知人」が上位4位

『「お子様のしつけや教育」についての情報をどこから(だれから)得ていますか』という設問(複数回答)の結果、選択された比率が高いのは、①「近所の友人・知人」63.5%、②「自分の親」58.2%、③「園の先生」45.1%、④「近所ではない友人・知人」39.4%、⑤「配偶者」36.9%であった。

1997年調査と比べると、②「園の先生」55.7%が下降し、⑦「近所ではない友人・知人」27.9%が上昇し、「インターネット」1.1%も今回は8.6%と増加していた(巻末基礎集計表参照)。

図2-9で示すように、ほとんどの項目で幼稚園児の母親のほうが数多くの情報源を活用しており、保育園児の母親は「園の先生」と「近所ではない友人・知人」のみ高い割合になっている。就労状況別で専業主婦と常勤を比較すると、専業主婦は、「保健所の保健師や栄養士」「育児書や教育書など専門書」「通信教育の親向けの冊子」などを情報源としている割合が常勤よりも多く、常勤は「自分の子ども」「病院の医師や看護師」「インターネット」「その他」を情報源としている割合が専業主婦よりも多かった。「その他」を選択した人は全体で139人いるが、そのうちでは、「自分自身」29.5%がもっとも多い。次いで、「職場(仕事)関連で知り合った人」17.8%、「園を通して知り合った人」15.5%となっており、それ以外にも宗教関係や講習会、

広い意味での先生などが記述されていた。

◆数多くの情報源を状況にあわせて使い分ける

第1子の子育てをしている母親は、第2子以降の母親よりも「自分の親」「配偶者の親」「親以外の家族・親戚」「園の先生」「保健所の保健師や栄養士」「育児雑誌」「育児書や教育書など専門書」「インターネット」など、多くの情報源を用いている。一方、第2子以降の母親は、「近所の友人・知人」「自分の子ども」「新聞」を活用する比率が高かった(図省略)。

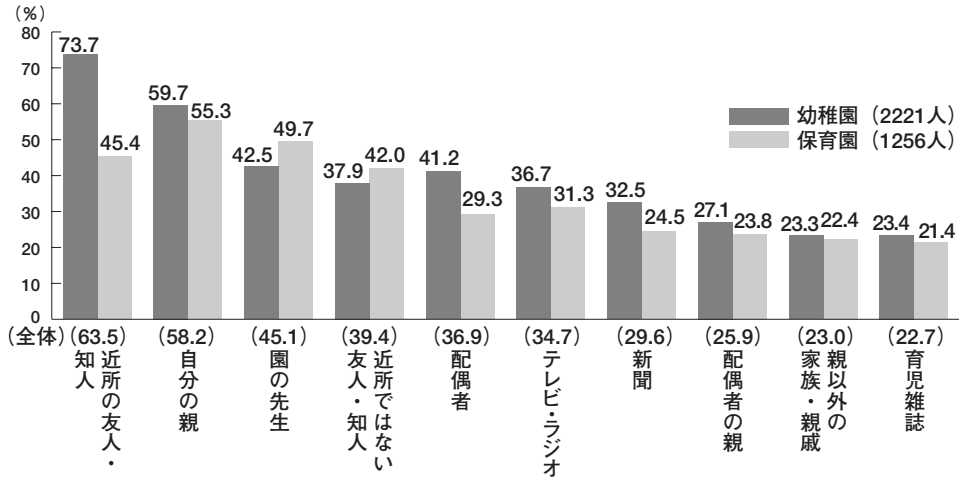
子どもの学年別にみると、年少児の母親が年中・年長児の母親に比べて多くの情報源を活用している。年長児の母親のほうが多かった項目は「配偶者」と「習い事や教室の先生」だけであった(図2-10)。

また、母親の世代では、10~20代は「自分の親」「病院の医師や看護師」、30代は「近所の友人・知人」「配偶者」「配偶者の親」「通信教育の親向けの冊子」、40代以上は「新聞」「育児書や教育書など専門書」「習い事や教室の先生」を活用する割合が高い(図2-11)。

家族構成別にみると、核家族は「近所の友人・知人」「新聞」を、三世代家族は「配偶者の親」を、ひとり親家庭や四世代など多様な「その他の家族」は「保健所の保健師や栄養士」と「病院の医師や看護師」を情報源として活用する傾向が強かった(図省略)。

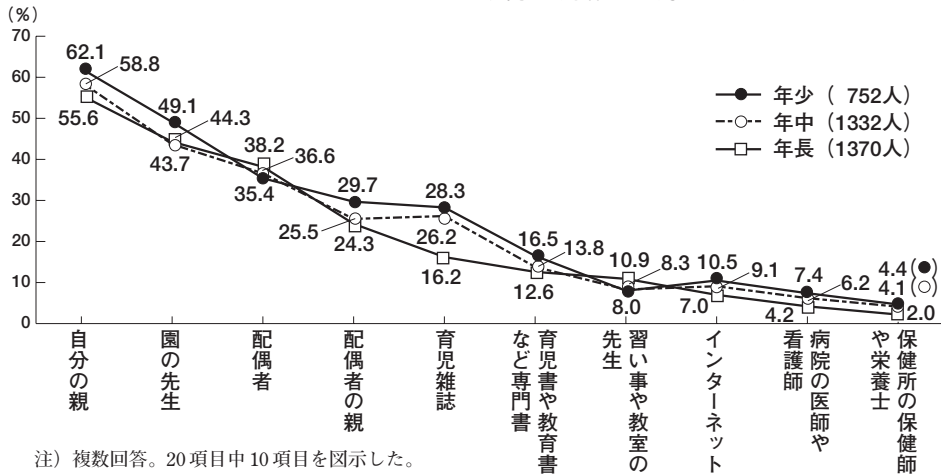
しつけ・教育の情報源は親子を囲む家庭環境や社会的状況で明確に使い分けられている。

■図2-9 しつけ・教育の情報源(幼保別)



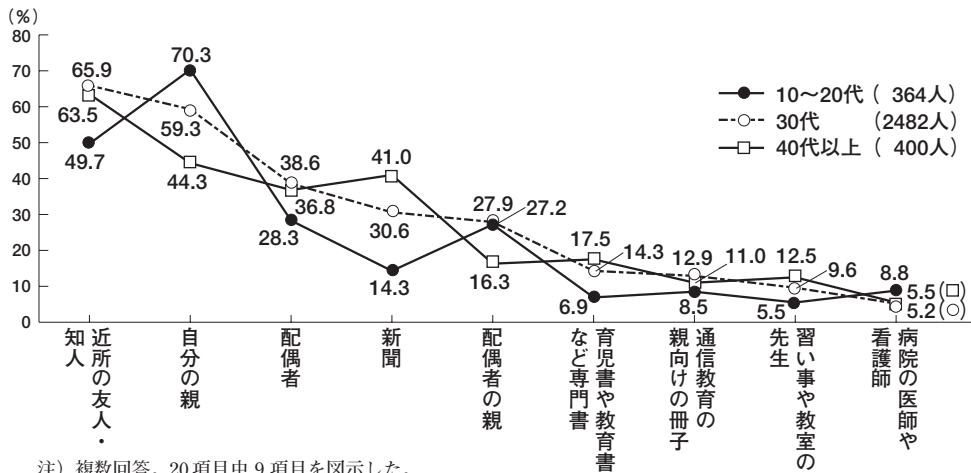
注) 複数回答。20項目中上位10項目を図示した。

■図2-10 しつけ・教育の情報源(学年別)



注) 複数回答。20項目中10項目を図示した。

■図2-11 しつけ・教育の情報源(年代別)



注) 複数回答。20項目中9項目を図示した。

第4節

信頼するしつけ・教育の情報源

さまざまなしつけ・教育情報源のなかから、とくに信頼する人として、友人たち、自分の親、園の先生、配偶者などが上位にあげられた。また、母親は子育ての悩みや気がかりの内容によって情報源を選定していることも明らかになった。

◆◆信頼する情報源の上位は「自分の親」「近所の友人・知人」「園の先生」「配偶者」

「しつけ・教育の情報源として、とくに信頼している人やものを3つまで選んでください」という設問の回答結果を図2-12に示した。

とくに信頼している情報源は、①「自分の親」42.7%、②「近所の友人・知人」36.9%、③「園の先生」29.5%、④「配偶者」25.5%、⑤「近所ではない友人・知人」20.6%の順であった。

1997年調査では、①「近所の友人・知人」47.0%、②「園の先生」37.7%、③「実家の母」36.8%、④「配偶者」27.5%、⑤「近所ではない友人・知人」17.2%の順であった。全般的に数値が減少しているが、「近所ではない友人・知人」が増加していた。なお、1997年調査の「実家の母」を、今回は「自分の親」と改訂したため、父親も含まれて数値が高くなったと思われる。

◆◆一番の悩みや気がかり内容で異なる情報ソース

母親の就労状況別でとくに信頼するしつけ・教育の情報源をみたのが、図2-13である。

専業主婦は「近所の友人・知人」と「配偶者」を信頼している割合がパートや常勤よりも高く、地域を中心とした情報ネットワークを活用していることを物語っている。

一方、常勤で働く母親は「園の先生」と職

場や学生時代からの友人など「近所ではない友人・知人」への信頼度が高く、パートは専業主婦と常勤の中間に位置していた。また、パートの母親は、「自分の親」がもっとも多く、新聞やテレビ、専門書などのメディアに対する信頼度が他の母親と比べると低かった。

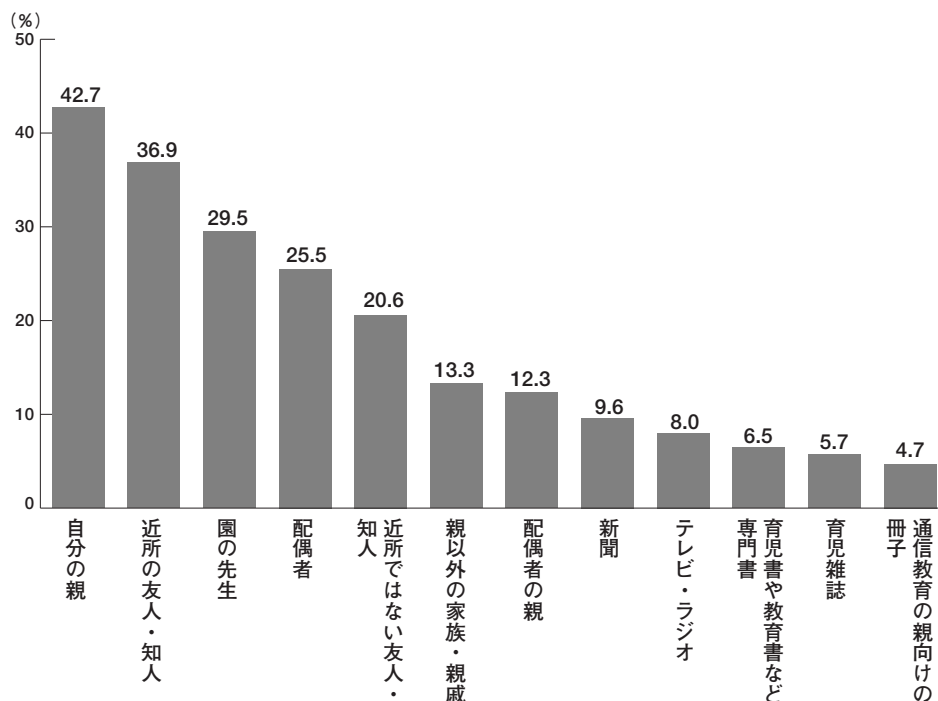
次に、「子育ての一番の悩みや気がかり」と「信頼する情報源」の関連をみた。「おねしょ、トイレのしつけ」が気がかりな母親は「近所の友人・知人」を、「食事のしつけ」「ケガや病気」が気がかりな母親は「自分の親」を信頼する情報源として活用している傾向が強かった。

また、「しつけのしかた」「テレビゲーム」「心の悩み」を気がかりにしている母親は「園の先生」を、「小学校入学前の準備教育」「ほめ方・しかり方」や自分自身の「からだ(健康)の悩み」を気がかりにしている母親は「習い事や教室の先生」を、自分自身の「人間関係」の悩みをもっている母親は「カウンセラー・心理相談員」を信頼している情報源にあげている割合が高かった。

情報メディアに関してみると、「しつけのしかた」に悩みをもっている母親は「育児雑誌」と「育児書や教育書など専門書」を、「これからの生きがいや始めたいこと」を気がかりにしている母親は「新聞」を、「仕事に関すること」の悩みをもっている母親は「インターネット」を信頼している情報源としてあげている割合が高かった。

悩みや気がかりの内容によって、信頼する情報源を使い分けているようである。

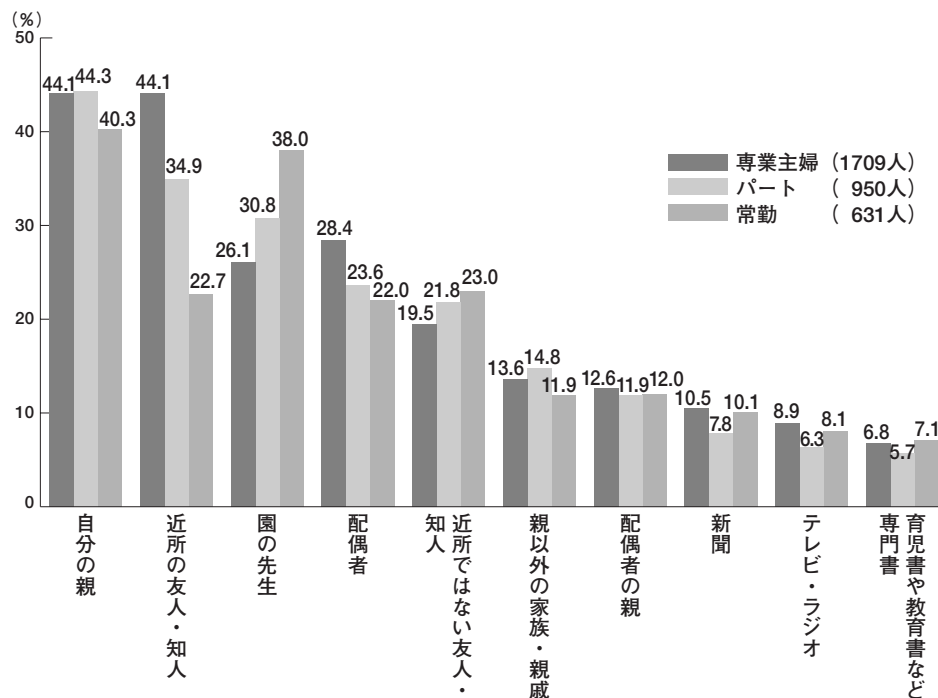
■図2-12 とくに信頼するしつけ・教育の情報源



注1) サンプル数は3477人。

注2) 20項目のなかから、とくに信頼している人やものを3つまで選択。20項目中上位12項目を図示した。

■図2-13 とくに信頼するしつけ・教育の情報源(母親就労状況別)



注) 20項目のなかから、とくに信頼している人やものを3つまで選択。20項目中上位10項目を図示した。

第5節

家庭でのしつけ・教育方針

子育てをするうえで心がけていることとしては、人とのコミュニケーションを重視した社会的な協調性、家庭のなかで自立心を養うことが上位にあげられていた。母親の就労状況によって、しつけ・教育の力点が異なっていた。

◆女子は社交性と家事能力 男子は元気に外遊び

「ご家庭でお子様を育てていくうえで、とくに心がけていること」を19項目のなかから複数回答してもらった。その結果は、「基本的なあいさつやお礼ができるようにしつけている」が全体で85.5%と筆頭にあげられ、次いで、「一人でできることは、できるだけ自分でさせるようにしている」75.6%、「友だちと仲よくするように教えている」73.2%の順であった。性差をみたのが図2-14で、男女差がみられた内容は、女子の母親に多いのは、「基本的なあいさつやお礼ができるようにしつけている」87.3%、「一人でできることは、できるだけ自分でさせるようにしている」79.1%、「友だちと仲よくするように教えている」74.6%、「乱暴な言葉やきたない言葉を使わないようにさせている」61.5%、「子どもがいつもお手伝いをする家事がある」27.3%などであり、まわりの人や友だちへの思いやりと家事能力を身につけてほしいという意識があらわれていた。男子の母親に多いのは、「外遊びをさせるようにしている」43.9%、「テレビゲームで遊ぶ時間は決めている」22.7%などで、家の中ではなく外で体を使って遊んでほしいという願いが出ていた。

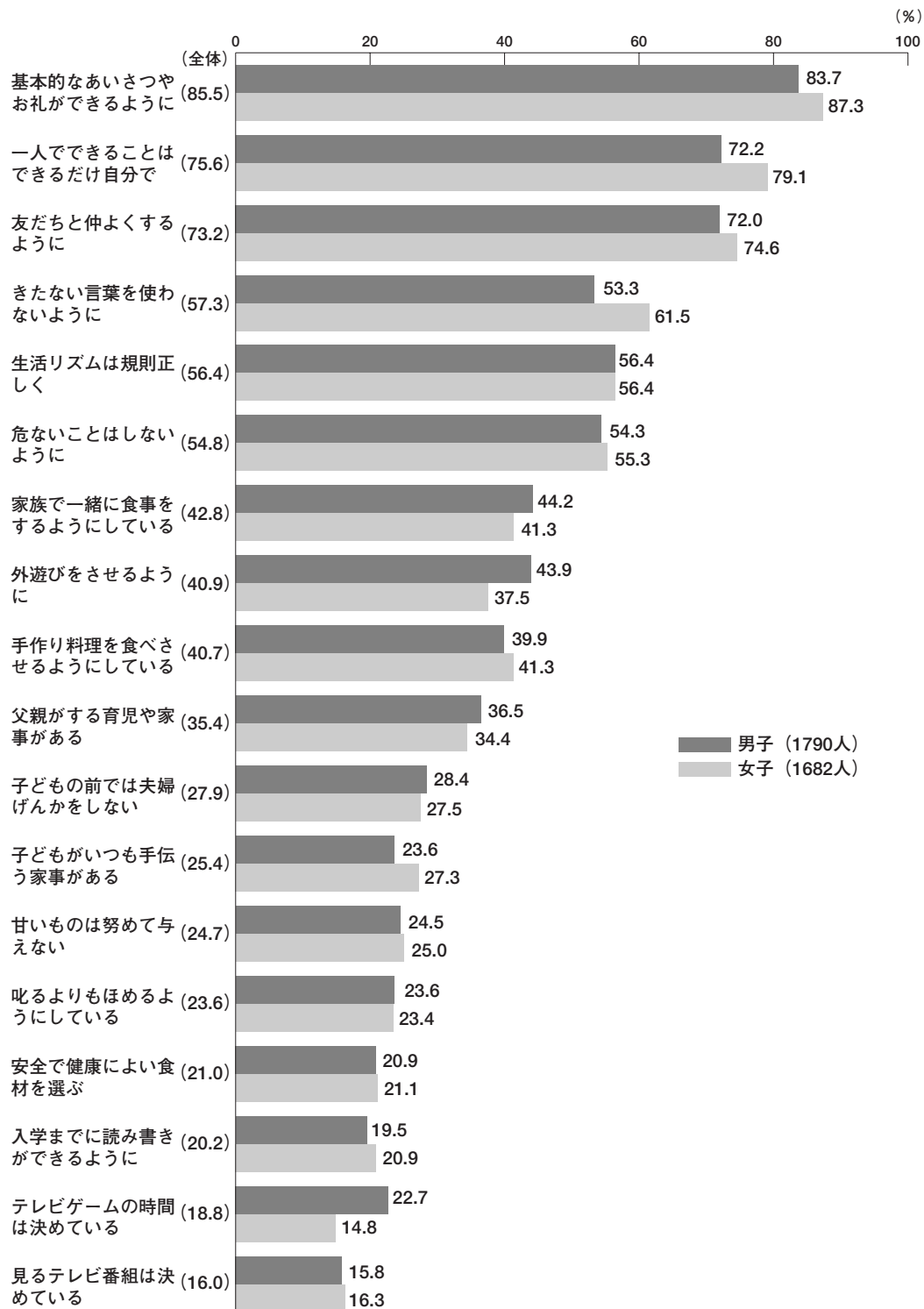
2003年調査では設問内容に一部変更があったが、1997年調査でも上位3位は「基本的なあいさつやお礼ができるようにしている」89.3%、「友だちづきあいは大切にするよう教え

ている」67.1%、「朝起きる時間や夜寝る時間など生活リズムは規則正しくしつけている」58.9%であった。

◆年少・年中児は食生活重視 年長児は就学準備

子どもの学年での変化をみると、「清涼飲料水やジュース、チョコレートなど甘いものは努めて与えない」(年少28.3%→年中23.5%→年長24.2%)、「安全で健康によい食材を選んでいる」(24.6%→19.3%→20.7%)となっていて、年少の母親は食べ物に気をつけていることがわかる。また、学年が上がるにつれて数値が高くなる項目は、「テレビゲームで遊ぶ時間は決めている」(11.0%→16.9%→24.8%)、「子どもがいつもお手伝いをする家事がある」(20.7%→25.5%→27.8%)、「小学校入学までに読み書きができるよう心がけている」(13.3%→19.9%→24.3%)などとなっていて、就学を目指しての生活上の心がけが増加している様子が見受けられた(巻末基礎集計表参照)。さらに、出生順位別でみると、第1子の母親は、第2子以降の母親に比べて、「清涼飲料水やジュース、チョコレートなど甘いものは努めて与えない」「乱暴な言葉やきたない言葉を使わないようにさせている」「友だちと仲よくするように教えている」「父親が必ずするようにしている育児や家事がある」「叱るよりもほめるようにしている」といった多くの項目で割合が高く、しつけの意識が高かった(図省略)。

■図2-14 子育てで心がけていること(性別)



注1) 複数回答。「その他」は図から省略した。

注2) 項目は一部、略記した。詳細は「調査票見本」(p.116)を参照のこと。

◆働く母親は家族で食事を 専業主婦はしつけを重視

しつけ・教育方針で専業主婦と働く母親で明らかに差がみられた項目を比較したのが、図2-15と図2-16である。

専業主婦のほうが他より心がけている項目は、「友だちと仲よくするように教えている」(専業主婦76.0%、パート71.8%、常勤69.3%、以下同様)、「朝起きる時間や夜寝る時間など生活リズムは規則正しくしつけている」(59.0%、53.8%、54.0%)、「安全で健康によい食材を選んでいる」(22.8%、17.1%、21.4%)、「テレビゲームで遊ぶ時間は決めている」(21.1%、19.9%、10.3%)、「子どもが見るテレビ番組は決めている」(18.3%、12.8%、13.9%)であった。一方、働く母親の数値が高かったのは、「家族で一緒に食事をするようにしている」(39.6%、46.4%、47.5%)、「清涼飲料水やジュース、チョコレートなど甘いものは努めて与えない」(24.0%、23.1%、28.7%)、「叱るよりもほめるようにしている」(23.7%、20.5%、27.1%)であった。専業主婦は家庭内でのテレビ視聴も含む子どもの生活リズムの管理を心がけており、働く母親は一緒にいる時間を有効に使うという姿勢がみられた。「家族で一緒に食事をするようにしている」は、必ずしも家庭でということではなく、外食も含まれるであろう。また、上の子は塾や習い事、父親は残業で忙しいが、できるだけ家族で一緒に食事時間をもつように心がけている場合も広く回答されていた。

◆家族構成・年代・学歴で 異なる子育ての教育方針

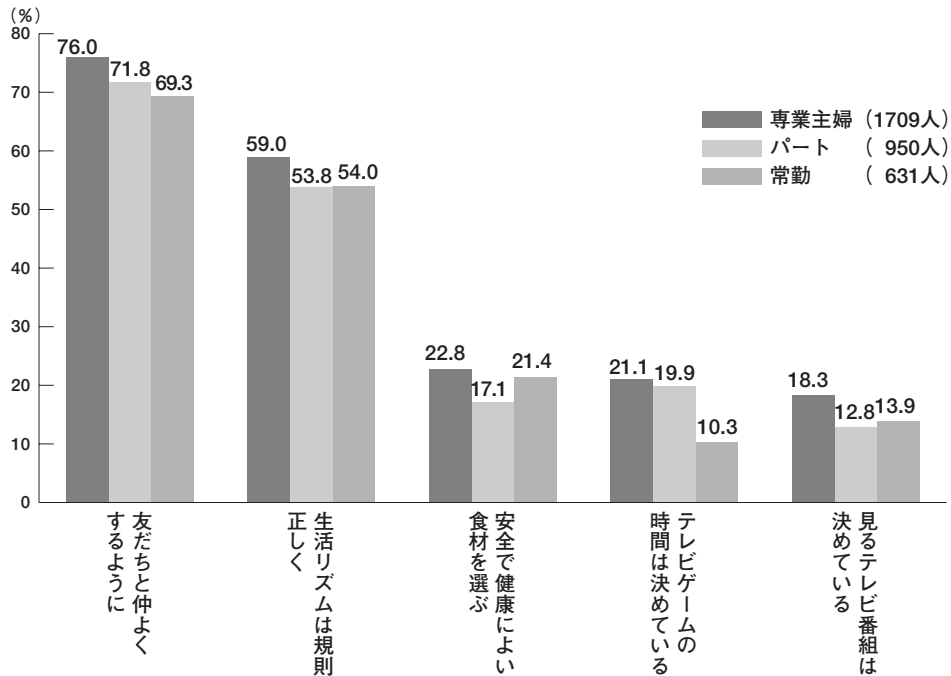
家族構成別にみると、核家族は「朝起きる時間や夜寝る時間など生活リズムは規則正しくしつけている」「清涼飲料水やジュース、チョコレートなど甘いものは努めて与えない」「父親が必ずするようにしている育児や

家事がある」が、三世代家族は「家族で一緒に食事をするようにしている」が、それぞれ他に比べて高かった。母子家庭や四世代、夫婦いずれかのきょうだいやいとこなども含めた「その他」の家族構成の教育方針では「その他」を選択している比率が高く、その内容は「思いやり」や「子どもの自主性を尊重する」ものであった。しつけ・教育方針で心がけていることについて189人が「その他」に記入しており、①「きょうだい仲よく」11.5%、②「テレビゲームはやらない」8.5%、③「まわりに迷惑をかけない」6.3%、「子どもの意見を聞く」5.8%、④「うそをつかない」5.0%など多様なわが家の方針があげられていた。

次に年代別にみると、全体の約7割を占める30代は、「朝起きる時間や夜寝る時間など生活リズムは規則正しくしつけている」「外遊びをさせるようにしている」を、40代以上では「叱るよりもほめるようにしている」を選択する比率が高かった。10～20代の母親は、「子どもが見るテレビ番組は決めている」「父親が必ずするようにしている育児や家事がある」「叱るよりもほめるようにしている」「安全で健康によい食材を選んでいる」などを選ぶ比率が、他の年代に比べて明らかに低い結果であった。

また、母親の学歴別では、短大卒以上の高学歴な母親が、「安全で健康によい食材を選んでいる」「清涼飲料水やジュース、チョコレートなど甘いものは努めて与えない」「手作り料理を食べさせるようにしている」「叱るよりもほめるようにしている」「子どもが見るテレビ番組は決めている」「外遊びをさせるようにしている」などを選択する傾向が強く、生活習慣のしつけよりも食生活を中心にして子どもの生育環境の充実を重視していた(図省略)。

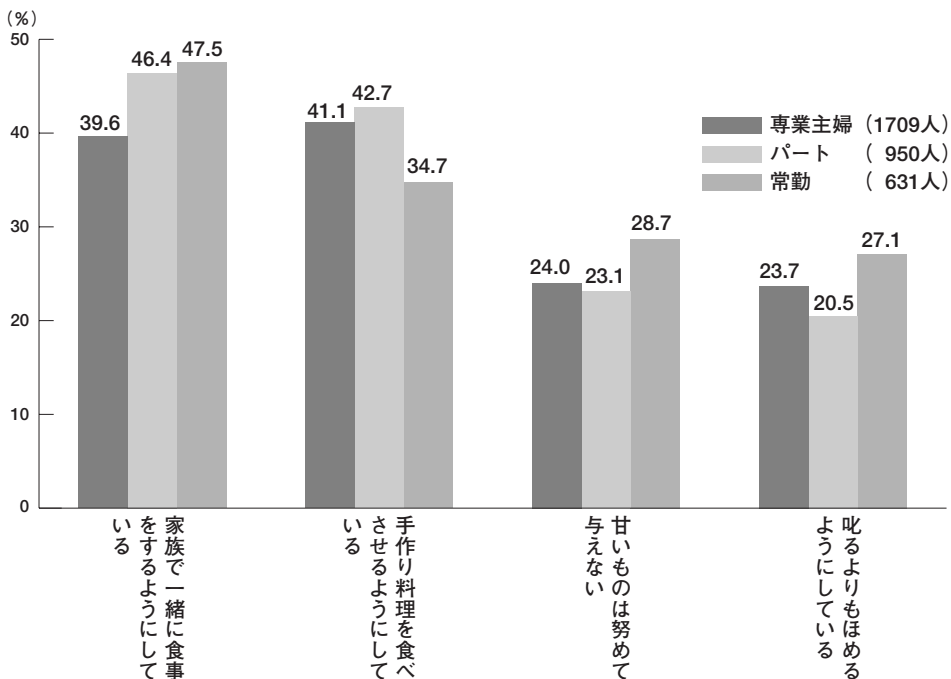
■図2-15 しつけや教育方針（母親就労状況別、専業主婦が高い項目）



注1) 複数回答。

注2) 項目は一部、略記した。詳細は「調査票見本」(p.116)を参照のこと。

■図2-16 しつけや教育方針（母親就労状況別、働く母親が高い項目）



注1) 複数回答。

注2) 項目は一部、略記した。詳細は「調査票見本」(p.116)を参照のこと。

第6節

幼稚園・保育園の選び方

園選びで重視することを選んでもらった結果、選択数が多いのは幼稚園児、第1子、年少児の母親であった。内容としては、知育関連の項目より「家から近い」「雰囲気がい」「評判がい」「親の通勤に便利」「長時間あずかってくれる」「給食がある」などが優先されていた。

◆◆園選びを考えた母親は全体で74.4%

「お子様の通う幼稚園や保育園を選ぶときに、どの園にするかを考えましたか」とたずねたところ、全体として「よく+まあ考えた」74.4%、「あまり+まったく考えなかった」21.8%であった。幼保別に比較してみると、園選びに関しては、保育園児の母親のほうが、幼稚園児の母親より熟考していることが明らかになった(図2-17)。

◆◆園の種類や家庭の教育方針で

異なる重視する項目

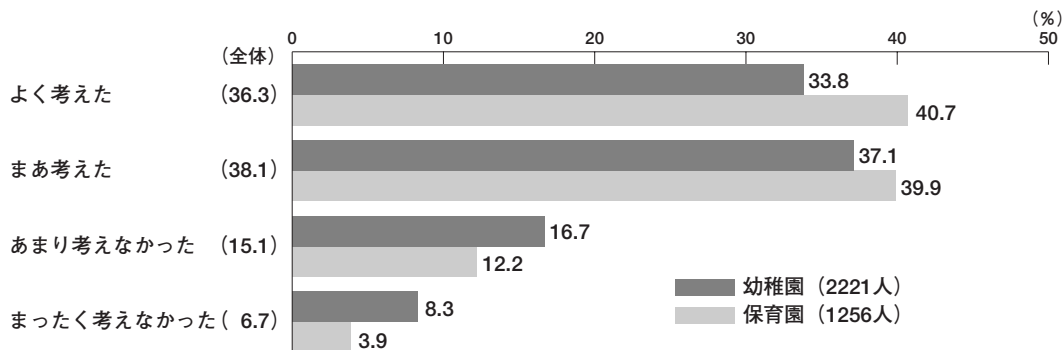
園の種類によって園選びで重視する内容は大きく異なり、幼稚園では、①「家から近い」59.9%、②「雰囲気がよい」56.9%、③「園児が明るい」43.3%、④「評判がい」36.2%、⑤「園長や先生が信頼できる」34.3%が上位にあげられた。保育園は、①「家から近い」74.5%、②「親の通勤に便利」44.4%、②「雰囲気がよい」44.4%、④「長時間あずかってくれる」43.9%、⑤「給食がある」39.6%の順であった。また、全体的に、「園で習い事ができる」「読み書き計算を教えている」「小学校受験に有利」など知育関連の

項目は、他の所で行うことが前提とされているのか園選びには重視されていない(図2-18、図2-19)。

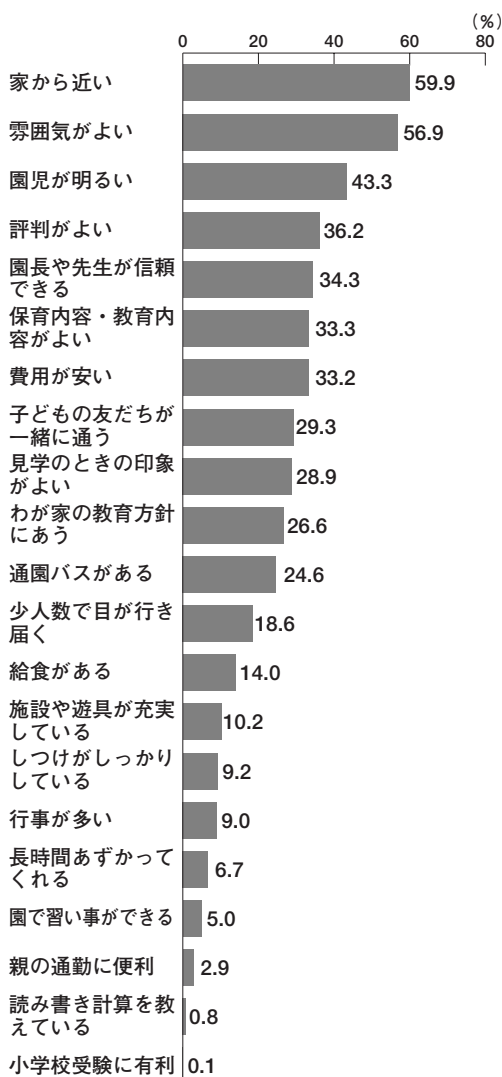
幼保別で大きな差がある内容を比較すると、保育園では、「親の通勤に便利」「長時間あずかってくれる」「給食がある」「施設や遊具が充実している」の数値が高かった。幼稚園では「雰囲気がよい」「園児が明るい」「園長や先生が信頼できる」「保育内容・教育内容がい」「費用が安い」「子どもの友だちと一緒に通う」「わが家の教育方針にあう」をより重視していた。「その他」は307人が回答しており、自由記述では、①「きょうだい通っている」18.6%、②「外遊びなどのびのび遊べる」12.4%、③「同じ学区の小学校に行ける」8.5%、④「園庭が広い」7.5%が多い内容であった。

就労状況別では、専業主婦のほうが働く母親に比べて、園選びのときに重視した項目数が多かった。同様に、出生順位別では、第2子以降よりも第1子の母親が、学年別では、年長児の母親よりも年少児の母親のほうが、選択した項目の数が多かった(図省略)。

■図2-17 幼稚園・保育園選択(幼保別)

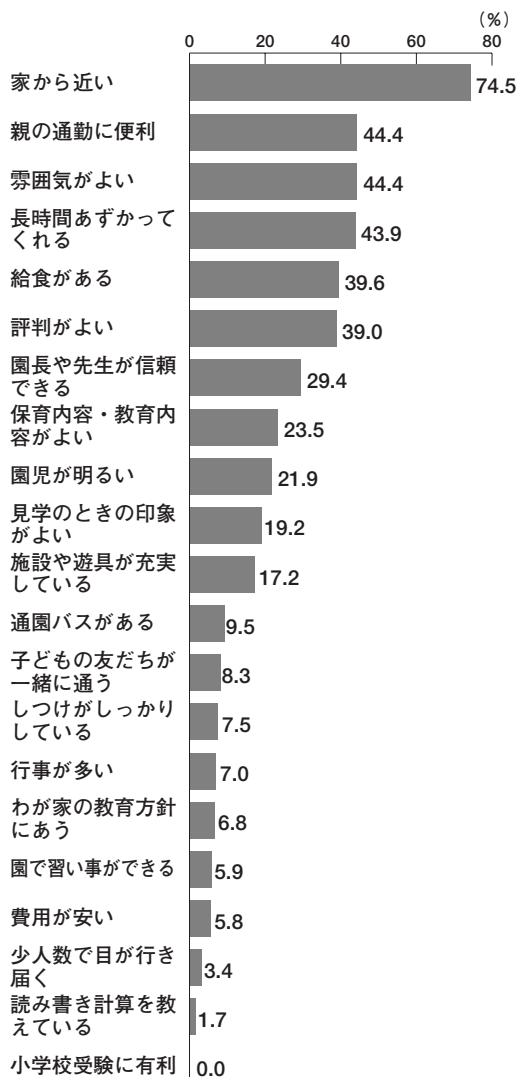


■図2-18 幼稚園選びで重視したこと



注1) サンプル数は園を選択するときに「よく考えた」「まあ考えた」と回答した幼稚園児の母親1573人。
注2) 複数回答。「その他」は図から省略した。

■図2-19 保育園選びで重視したこと



注1) サンプル数は園を選択するときに「よく考えた」「まあ考えた」と回答した保育園児の母親1012人。
注2) 複数回答。「その他」は図から省略した。